

オミクロン株感染後37日、残る肺の影と長期症状

南アフリカでオミクロン株に感染した中国人 H さんについての続報

2022年12月4日、中国のメディア紅星新聞の記者が、2021年11月末に南アフリカでオミクロン株に感染した中国人男性 H さん（32歳）に再度インタビューを行なったので、主な内容を翻訳、紹介する。

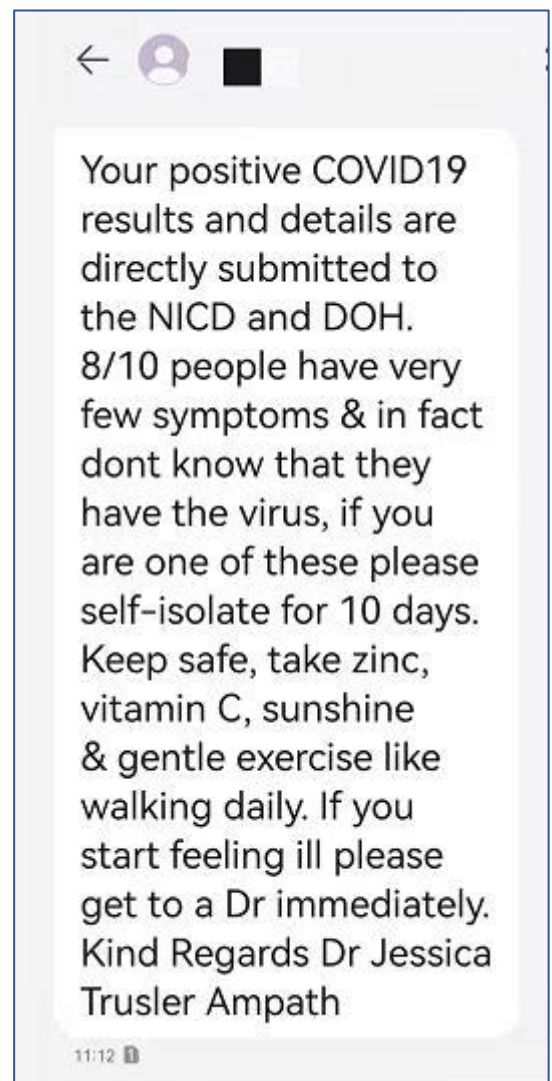
吉川淳子（南京中医薬大学）

Hさんのこれまでの経過¹

- ・2021年4月より中国企業の駐在員として南アフリカヨハネスブルグに単身赴任。
- ・2021年1月に中国で中国製ワクチンを2回接種完了、2021年10月21日南アフリカでファイザー製ワクチンを1回接種。
- ・2021年6月17日 新型コロナに感染（デルタ株患者と同じ会に出席）、6月下旬にPCR陰性になるも嗅覚障害が残る。

ヨハネスブルグでオミクロン株感染

- ・2021年11月29日（D1）
夜、頭痛、咳嗽、喉の痛み、力が入らない、眠気が強いなどの症状が出現し、夜間咳が増悪。
- ・2021年11月30日（D2）
倦怠感が強いが受診し、PCR検査を実施、翌日陽性が判明、デルタ株については陰性であったため、オミクロン株感染と診断される。



オミクロン株陽性確定時受け取ったメール

¹吉川淳子『南アフリカでオミクロン株に感染した中国人のインタビューおよび中国の新型コロナウイルス関係の最新ニュース』（kansensho.or.jp）https://www.kansensho.or.jp/uploads/files/topics/2019ncov/covid19_interview_211213.pdf

・ 2021年12月1～2日 (D3～4)

症状は乾性咳嗽、発熱 (37.8℃前後)、口渇 (2時間で3L、1日5Lの水を飲む)、肺の乾燥感、顔などに大量の汗。

「肺に火がついた感じ、水を大量 (2時間で3L、1日5L) に飲むが、尿があまり出ない。」

・ 2021年12月3日 (D5)

現地中医師のオンライン診察を受け、処方された中薬 (杏仁、炙甘草、麻黄、猪苓、沢瀉、桂枝、茯苓、白朮、柴胡、姜半夏、冬花、生姜、藿香、陳皮、射干、川貝母粉など) を夜から服用。午後から体温が下がり始める。

・ 2021年12月4日 (D6)

朝の体温は 36.7℃から 36.5℃に下がり、声枯れ、倦怠感、眩暈はあるものの、気力体力はかなり回復、乾性咳嗽は間歇的になる。

・ 2021年12月5日 (D7) 6割程度まで回復感。夜咳込んで起きることはなくなり、昼間の空咳も改善、肺が燃えるような感じは基本的に消失。

Hさんの経過続報²

・ 2021年12月7日 (D9)

中薬服用4日、これまで毎日布団を被って寝ているうちに平熱となり、症状は以前より改善。西洋薬は服用しなかった。

その後、症状がぶり返すことはあったが、全体としては回復に向かう。

2021年12月24日 (D26)

受診、PCR 陰性

² 紅星新聞『首例被披露感染奥密克戎的南非中国人核酸转阴：肺部两侧蒙上白色阴影（オミクロン感染第1号となった南アフリカの中国人はPCR陰性になったが、両肺に白い影がある）』

<https://baijiahao.baidu.com/s?id=1721020844650539259&wfr=spider&for=pc>

2022年1月4日（D37）インタビューに応じる

・現在残る「後遺症」として、嗅覚低下、肺活量の急激な低下、激しい運動ができない、すぐ疲労し、倦怠感が強い、などがある（自覚症状と病院での検査による）。

・6月17日に新型コロナデルタ株に初感染、6月下旬にPCR陰性になったが嗅覚を喪失、その後少しずつ部分的に回復してきたが、正常には戻らなかった。今回オミクロン株感染後、再び嗅覚が低下した。

・肺活量：

発病前の約1/3に低下し、ジョギングや水泳などの激しい運動はできなくなった。

・胸部CT：

両肺ともにひろがる白い影が認められた。

Hさん「2回の感染が重なったせいで影があるのだろうか？」

現地の医師「肺機能の回復には長い時間の療養が必要。」

・倦怠感：

Hさん「1週間のうち3～4日、午前または午後に突然元気がなくなったと感じ、ベッドかソファに横になったかと思うと眠ってしまいます。目が覚めるととても喉が渇くので、水を探して飲みます。」

・「今も積極的に自分を調整してリハビリをしている段階です。外出はしておらず、自主的に自宅隔離をしています。帰国に向けて航空券の状態と大使館の通知に注目しています。2022年前半には帰国して家族に会いたいです。」

ウイルス排除はデルタ株重症患者より困難な可能性

Ct値が上がらず入院が続く中国広州オミクロン株感染の一症例

症例は2021年11月27日、飛行機でカナダから上海に帰国した中国で3例目のオミクロン株輸入症例で、入国後14日間はPCR陰性であった。陽性判明から22日となる2022年1月2日の医師の談話ではまだPCR陰性にならず、Ct値30前後で推移している。

症例：67 歳 男性 中国人

感染発見までの経過³：

- ・ 2021 年 11 月 27 日、航空機でカナダから上海に帰国。
- ・ 上海で 14 日間の集中隔離期間中、1 日め、4 日め、7 日め、14 日めの PCR 検査はすべて陰性。
- ・ 2021 年 12 月 11 日上海での隔離解除、航空機で上海から広州に移動、閉鎖管理で広州市内の自宅に到着後自宅隔離。
- ・ 2021 年 12 月 12 日（D1）に採取した検体が PCR 検査で陽性（翌日判明）。
- ・ 2021 年 12 月 13 日（D2）陰圧救急車で広州医科大学付属第八病院に移送。

入院時の所見：胸部 CT で両肺に炎症が認められ、中等症と診断された。状態は安定。

ゲノム解析の結果、感染したウイルスはオミクロン株であることが判明した。

自宅周囲へのウイルスの拡散⁴

- ・ 陽性が判明した 12 月 13 日から広州の家の近所の住民 10,544 人の PCR 検査はすべて陰性。
- ・ 環境サンプルは陰性 128 件、症例の住居の 4 件のみ陽性。
- ・ 2021 年 12 月 16 日未明

13 日から集中隔離されていたマンションの同じ棟の 70 歳の女性が PCR 検査で陽性となり入院⁵。

2021 年 1 月 3 日の広州地元紙の報道⁶

- ・ 症例が入院する広州医科大学付属第八病院の中医科 譚行華（Tan Xinghua）医師にインタビュー
- ・ 2021 年 12 月 13 日（D2）**症例入院時の所見**：
- ・ 症状は軽く、微熱と咳嗽、肺の炎症が認められ、検査と専門医の対診の結果、中等症と診断された。

³ 中国 CDC 週報 『An Imported Case and An Infected Close Contact of the Omicron Variant of SARS-CoV-2 — Guangdong Province, China, December 13, 2021』 2021.12.18 <http://weekly.chinacdc.cn/en/article/doi/10.46234/ccdcw2021.265>

⁴ 広州市人民政府『广州发现境外输入奥密克戎阳性病例（広州でオミクロン株輸入症例を発見）』 2021.12.15
http://www.gz.gov.cn/zt/qlyfdyyqfkyz/qktb/yqtb/content/post_7967502.html

⁵ 広州市人民政府『广州 12 月 16 日发现 1 例境外输入关联病例例（広州で 12 月 16 日輸入症例関連の症例 1 例を発見）』 2021.12.17 http://www.gz.gov.cn/zt/qlyfdyyqfkyz/qktb/yqtb/content/post_7972322.html

⁶ 羊城晚報『奥密克戎毒株感染者或需更长时间才能核酸转阴（オミクロン感染者、PCR 陰性までの時間が長い可能性）』 2022.1.3 http://ep.ycwb.com/epaper/ycwb/html/2022-01/03/content_3_460356.htm

・2022年1月2日（D22）

- ・中医学、西洋医学併用治療により、ウイルス量は低下したが、PCR検査はまだ陰性になっていない。
- ・Ct値は30前後で推移。

オミクロン患者治療の難しさ

- ・オミクロン患者の症状は軽いが、ウイルス量は治療により低下してもCt値が30前後であり、ウイルスを完全に排除するのはかなり難しい状態。デルタ株で重症の患者に比べてもウイルス排除は困難だといえる。そのため、オミクロン株感染患者がPCR陰性になるのはさらに時間がかかる。隔離しなければならぬ期間が長期化するため、患者さんにとっては心理的なプレッシャーが大きくなる。
- ・当院は2022年1月1日現在で50例のCOVID-19患者を抱えており、全員に個室での隔離治療を実施している。今後オミクロン株の症例が多くなり、PCR陰性になるのが難しいことが予想されるので、隔離病棟を増やして対応しているところである。

オミクロン患者発見の難しさ

- ・ゲノム解析には一定以上のウイルス量が必要で、ウイルス量が少ない場合は分離できないことから、スクリーニングで見つかる感染者のウイルス量は高くなるが、ウイルス量が少ない者でもオミクロン株感染者がいる可能性がある。
- ・香港の隔離ホテルでの感染のように、オミクロン株は空気感染などの強い感染力を持つが、すぐに発見されない隠匿性も高い。

今後の治療に必要なこと

- ・早期に治療方法を探し、オミクロン株ウイルスを排除してPCR陰性になるようにしていくことが必要。
- ・新しい処方を考えているが、以前の『肺炎1号』の方剤との違いは、患者の免疫力を高めることに重点を置いていることである。中薬を服用後、身体の免疫力を向上させ、それによりウイルス排除の目的を実現させる。
- ・現時点ではオミクロン株感染者には中薬の顆粒方剤の投与ではなく、煎じ薬にすることを考えており、それぞれの生薬を煎じて服用する。現在臨床で観察しているCOVID-19患者では、煎じ薬は顆粒方剤より飲みやすい。中薬を服用した患者のウイルス排除速度は、中薬未服用の者より速い。